

2023 年 12 月 23 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 メール前文

最近よく思うことは、「神聖復活を果たした心境というのは、何事に対しても感謝の気持ちが湧き上がって止まず、自然体で感謝一念の日常になっている状態なのだ」ということです。

今の私達の心が、本当に神聖復活を果たした境涯で生きているかどうかは、日常の一瞬一瞬に触れる内外のすべてに“しみじみとした有り難み”を感じられているかどうかで観ることができます。

どうしてそれが神聖復活の真贋を量る指標になるかと申しますと、その対象に対して心底からの感謝が自然に出来ている状態が、感謝する対象と自己との一体化が果たされている状態だからです。

そこへ至る一番の近道は、私達を生かしてくださっている命の働きのすごさを認め、命の力によって生かされている事実に関心から感謝を捧げることです。私達は常日頃、無意識に流され惰性で生きているときには生かされている事実を忘れ、「自分が自分の力で生きている」と傲慢に振る舞いがちですが、次の項目に謝意を示しつつけることで、感謝一念の生活の基礎を築くことができます。

- *呼吸が出来ることに感謝する
- *心臓が動いていることに感謝する
- *血液が流れていることに感謝する
- *消化器官ほか、内臓の働きに感謝する
- *脳や神経の働きに感謝する
- *五感の働きに感謝する
- *細胞の新陳代謝の働きに感謝する

命の働きを少しく内省的に観ますと、それらの働きがどれほど有り難いことかがわかるはずなのに、神聖の意識を用いることなく習慣の想いに流されて生きていた時代には、私達はそれらの働きがさも当たり前であるかのように思え、感謝の気持ちを持てずにいたのです。

今私達は、心の軸足の片方、もしくは両方を、神聖の波動圏に置いておりますから、当然のように命の力とその働きに敬意をもって生きています。しかしその感謝を、四六時中感じているかとなると心許(もと)ない。それは、溢れ出る感謝一念の心境の手前まで来ていて、“いつでもどこでも誰にでも何にでも”感謝が出来ようになる直前の段階です。

実際のところ、感謝一念になる方法は幾つもあり、どれが一番よいと断言できるものではありませんが、感謝しやすいことから感謝できるように練習してゆく方法が、感謝の道における一番の易行道だと思われます。そこで今回は、命の働きに生かされている事実に関心から感謝することが一番わかりやすくやりやすい方法だと考え、改めて上記の話を紹介いたしました。

私自身は、あらゆることに有り難みを感じられない心境にいた頃に、役者が演技をするように感謝しているうちに、心の底から有り難みが滲み出てきて、やがて努力なしに有り難みを感じられるようになってゆく道を通りましたが、それがすべての人に最適な方法だとは思っておりません。

そこで最近、感謝一念の心境になる道については、色々な人の体験を聞いて「これだ」と思った方法を真似することから始めることをお勧めしています。そうしているうちに誰もが、守護霊と直結した自らの閃きを通して、その人だけのオリジナルの道を見つけ歩むようになってゆきます。

また、そのような心持ちで今を生きることで大浄めの自然現象が発生したときにも、『大地とも空気とも水とも人類ともその他の生物とも宇宙とも一つに結ばれて生きている私達を犯すものは一切何もない事実』を体験することになります。

そこで 2023 年最後の『神聖で繋がり合う日』は、感謝行に特化し、森羅万象をあらしめる生命の力への感謝の響きで繋がり合い、感謝の対象と一体化した心境で光を放つ時間にしてまいります。

2023 年 12 月 23 日(土)夜 『神聖で繋がり合う日』 始めのお話

皆様、こんばんは。夜のズーム祈りの会を始めます。本日は今年最後の『神聖で繋がり合う日』になりますので、感謝に特化したいつもと違うプログラムを行ないます。

始めに、49 項目の肉体への感謝を行ないます。その感謝行は、私達を生かしてくださっている命の力とその働きへの本気の感謝であり、私達の体と心と命を三位一体にします。そうすることで私達の意識には、生かされて生きている個の意識と同時に、自らを生かしているいのちそのものの全体意識が表面化してまいります。

次に、各項目を七回ずつ行なう地球世界感謝行を通して、森羅万象へ向けて、本気の感謝を捧げます。それによって私達の意識は、各項目の自然や生きとし生けるものとまったく一つに結ばれます。それぞれの対象との一体化を果たすことで私達は、自分自身が海であり、山であり、空気であり、大地であり、生きとし生けるもののなかにも、私達の命が働いていることを自覚できるようになってまいります。

それによって今後の個としての私達は、ありてあるものすべてから守られ、どのような大浄めの中にあっても大難を小難に食い止め、多くの人類を救う拠点として働く確信を持てるようになります。

振り返ってみますと、自己都合による感謝は論外ですけれども、私達が行なうあらゆる感謝は、宇宙を創造し運行している生命の源への感謝に行き着きます。なぜならば、海や山や空気や大地への感謝も、私達の肉体やあらゆる生き物への感謝も、森羅万象をあらしめる命の根源への感謝に帰結してゆくからです。

今この時代にあって世界平和を心から祈る私達は、元はといえば全員が、宇宙を創造した大元の神の理念を地球に現わすために、自ら志願してほかの星からこの星に転籍してきた宇宙人類でした。

以前に、「惑星の開発というのは、神霊の世界からどんどん波動の粗い世界を開拓して行って、これ以上波動が粗くならない粗雑な天地に神霊文明を築き上げて、命の源へ帰ってゆく旅のようなもの」とお伝えしましたが、そのような意味で、生かされて生きている事実を省みて、肉体や命に心からの感謝を実行することも、万物に命が宿っていることを知り心からの感謝を実行することも、元々すべてが一つの大元から生まれた事実を思い出しながら帰り行く旅、ワンネスの境地へ至るプロセスだといえます。

そのような宇宙的な計画を思い出すために、まず私達が実行すべきことは、私達を生かしてくださっている肉体と命への感謝です。その行ないを繰り返しているうちに、次のような事実がわかってまいります。

*呼吸によって命の源と繋がり、それによって肺に取り込んだ生命要素を血液に溶かし込み心臓から発する動脈を通して全身に配り、静脈を通して役目を終えた生命要素を集め肺から排出する繰り返しにより生かされていること。

(※私達を生かす生命素には、霊的なエネルギーとこの世のエネルギーがあります)

*食物から生命要素を取り込み不要な要素を排泄する機能が備わっていること。

*意識の根幹が集約された脳と神経細胞との連携により、動作や言語を司っていること。

*脳幹と直結した五感の働きを通して、真の自他一体観を甦らせる資質が備わっていること。

*ミクロからマクロに至るまで、すべてが新陳代謝の働きにより成立し進化しつづけていること。

ほかにもたくさんありますが、私達を生かしてくださっている肉体と命に感謝することは、すべての存在に感謝できるようになるためのはじめの一歩だといえます。

今回はこの“はじめの一歩の感謝”から始めて、そのあとに、あらゆる存在への感謝へと意識を広げてゆくことで、私達が個の意識を持つと同時に、私達を生かしてくださる命の力があらゆる存在の中にもあまねく働いていることを実感できるほどの全体意識が甦ってきます。

そのようにしながら本日も、地球界に生かされて生きていることへの喜びと感謝の種を蒔くと同時に、この世のすべての存在に祝福の光を振り撒いてまいります。またそのときに私達が発する光は、『すべてを生かし育むいのちの大元からの光』であることを自覚しながら行なってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間になりましたので、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。一分間の黙想の形で行ないますので、「はい」と申し上げましたら一緒に、「世界人類が…」とお唱えください。そして眼を閉じて、神聖の視座に焦点を合わせてお祈りください。最後に、「はい、ありがとうございました」と声が聞こえたら目を開けてください。